

こども・若者の意見を聴く取り組み（令和7年度実績）

NO	所管課	事業名	対象者	取り組み形態	令和7年度の実施状況	成果
1	こども政策課 青少年愛護センター	こども・若者未来応援会議	大学生世代（19～22歳）以上の若者	附属機関での参画	若者の意見を聴くために大学生2名を委員として委嘱した。	令和7年度は会議を2回開催したが、2名とも大学の授業との兼ね合いにより参加してもらうことができなかった。 一方で、大学生の若者からは事前に意見を聞くことができ、委員となった大学生からは、現在のこども・若者・子育て世帯への本市の取り組みを知ることができて良かったという意見があった。
2	政策推進課 市民参画・協働推進課 国際文化推進課 管理課	第5次芦屋市総合計画後期基本計画・第3期芦屋市創生総合戦略・第4次芦屋市市民参画推進計画及び第3次芦屋市文化推進基本計画策定における子ども向け意見の募集	市立小学校・中学校に通う児童生徒	こども・若者向けパブコメ	当該計画策定にあたり、児童生徒の意見を計画に反映させるため実施。 実施期間：令和7年10月10日（金）～令和7年10月23日（木） 対象者：市内小・中学校に通う児童生徒 方法：保護者連絡システム「ミマモルメ」により保護者宛に案内を配信し、専用フォームにて意見を募集した。	意見提出数は総数で134件であった。通常のパブリックコメントに加え、児童生徒を対象とした意見募集を行うことで、幅広い世代から多様な意見を聴取することができた。また、本取組は児童生徒が市の総合計画等を知る機会となり、市政への関心を高めることにもつながった。
3	人権・男女共生課	芦屋市男女共同参画センター通信「ウィザス」	中学生	アンケート	中学生を対象に、男女共同参画に関するテーマで取材・撮影をさせていただき、芦屋市男女共同参画センター通信「ウィザス」を発行した。また取材協力いただいた中学生に、紙面の読みやすさや興味関心を尋ねるアンケートを実施した。	若者の意見として、中学生から考えを聞くことができた。「デートDV防止授業の取組を紹介してほしい」という意見を受け、次号企画の参考とした。
4	人権・男女共生課	芦屋市男女共同参画センター通信「ウィザス」	大学生世代（19～22歳）以上の若者	アンケート	芦屋市男女共同参画センター通信「ウィザス」について、内容、読みやすさ、デザイン等について尋ねるアンケートを実施し、紙面作成に活かした。	若者の意見として、大学生から考えを聞くことができた。「写真やイラストを増やしてほしい」という意見を反映し、より読みやすい紙面とすることができた。
5	地域福祉課	芦屋市の地域に関するアンケート（中学2年生・高校2年生相当の方向け）	中学生、高校生	アンケート	中学2年生、高校2年生相当の方1,714人に対し、アンケートWeb回答案内ハガキを送付した。	274人から回答を得ることができ、計画策定の基礎資料とすることができた。
6	こども政策課	こどもの人権ワークショップ	小学生	ワークショップ	小学校4年生から6年生を対象に「子どものけんりん なんてやねん！ すごろく」で遊びながら、友達との関わりや、人権について考えるこどもの人権ワークショップを開催した。（参加者16人、サポート役4人）	開催後のアンケートでは、人権について楽しく学べたという意見が多かった。保護者11人の見学者として参加し、こどもの権利について関心を持ってもらう機会となった。
7	市民参画・協働推進課	地元ぶらぶら学～地域づくりは「あるもの探し」から	高校生年代	ワークショップ	地域の大人が寄り添いながら、高校生がフィールドワークと、まちで暮らす人へのインタビューを行い、その結果を基に地図づくりをするワークショップを開催した。	高校生は7名が参加した。若者の視点から新たなまちの発見があり、それを地域の人々に報告することで多世代のつながりを生み出すことができた。また、地域資源を再確認し、ウェルビーイングについてについて考える機会となった。
8	こども家庭・保健センター	あしふくまつり	高校生年代	イベント	こどものやってみたいを体験できるような機会の創出に努めた。それら取り組みの中で中高生が企画・運営する「あしふくまつり2025」を開催した。	あしふくまつり2023に引き続き、全世代の皆さんに楽しんでもらいたいという思いで、ビンゴ大会やクイズラリー、お菓子釣りなどさまざまなブースを企画しました。多くのこどもが来場し、あしふくの認知がすすむとともに、企画や実施を通してこどもから様々な声をききました。
9	市民参画・協働推進課	芦屋さくらまつり清掃ボランティア	小学生、中学生、高校生、大学生	イベント	高校生が主催のボランティア団体を中心となり、芦屋さくらまつりにおける清掃ボランティア実行委員会を運営した。事前説明会、まつり当日運営、まつり後の振り返り会を実施した。	まつり当日は、小学生から大学生までは13名が参加した。竹串等の安全な回収方法や人員配置など、まつりを楽しんでいる人たちに配慮しながらの工夫を若者中心に考え、実行することができた。芦屋市にはゴミステーションへのテント配置を要望し、熱中症予防ができた。
10	学校教育課	Ashiya Education Day in summer	高校生年代大学生世代（19～22歳）以上の若者	イベント	あしやで育つ「こども」のために～学校・地域ができること～をテーマに、教育委員、地域住民の方、保護者の方、学生の方、学校園長など様々な立場で子どもたちのために何ができるかを対話した。	高校生、大学生の意見を聞くことができた。参加した高校生、大学生から、「自分の気持ちを大切にして自主的な活動や学習をすることの大切さを学んだ。様々な立場の人との対話を通して有意義な学びを得ることができた。」という意見があった。
11	人権・男女共生課	戦後80年及び非核平和都市宣言40周年記念「あしや平和の集い」	高校生年代	イベント	第2部「未来世代と芦屋市長によるディスカッション」で、市内高校生6名と市長で「平和」をテーマにした意見交換を実施した。	各学校で実施している平和に関する取組や、未来世代の平和に対する思いを共有することができた。 また、参加者へのアンケートの結果、「平和に対する意識が大変高まった、少し高まった」と回答した人の割合が約92%であり、本事業の実施効果が認められた。

NO	所管課	事業名	対象者	取り組み形態	令和7年度の実施状況	成果
12	スポーツ推進課	スポーツ啓発ポスター展	芦屋市内の小学校・中学校在校生	作品コンクール等	「するスポーツ、みるスポーツ、ささえるスポーツ」の啓発および推進といったテーマに沿った競技スポーツやスポーツを楽しんでいる様子、散歩や体操など日常の中で健康のために運動している様子、スポーツをしている人を応援している様子等の様々な子どもたちの発想でポスターを作成して応募いただいた。	スポーツの啓発及び推進を目的としていただいた応募作品、213点（小学生の部：132点・中学生の部：81点）を芦屋市立体育館・青少年センター2階フロアに展示を行った。
13	環境課	令和7年度「住みよい芦屋をつくる」ポスターコンクール 市民マナー条例部門	小学生、中学生	作品コンクール等	作品の応募を通じて、環境問題に興味・関心をもってもらうことを目的とし、以下の2点をお題に募集した。 (1) 歩きタバコ・吸い殻等のポイ捨ての禁止 (2) 飼い犬のふんの後始末 小学生39名、中学生23名の合計62名の応募があった。入賞人数は、小学生3名、中学生2名の計5名。	応募人数と受賞人数は、「令和7年度の実施状況」のとおり。表彰は「令和7年度環境フェスタ」にて実施。 この取組を通じてマナー意識を醸成し、さらにそれをまわり（特に大人）へ伝えてもらうことで、市民マナー条例の主旨理解が深まり、マナー啓発の期待ができると考えた。
14	環境課	令和7年度「子ども環境作文・ポスターコンクール」	芦屋市内に住んでいる小学生	作品コンクール等	作文とポスターの応募を通じて、環境について考えていただくことを目的に実施した。 応募者数はポスター49名、作文14名。入賞者数はポスター10名、作文6名（最優秀賞1名、優秀賞2名、佳作3名）。	環境について考え、作文やポスターで表現していただくことで、関心をもっただけでよかった。 また、「令和7年度環境フェスタ」で表彰式を実施することにより、小学生以外だけでなく大人にも啓発することができた。
15	地域福祉課	子どもの学習・生活支援事業	小学生、中学生、高校生	その他	教室（事業）の愛称を決めることになり、候補の中から事業対象者に選んでもらい、多数決により決定した。	事業対象者自らが教室の愛称を選択することで、より身近に、愛着を持ってもらうことができた。